

総合計画審議会 戦略プロジェクト二次評価調書

戦略プロジェクト名	2 2 食育の総合的な推進	
総合評価（検討が必要な事項）		対応内容
一次評価の検証		
<ul style="list-style-type: none"> <li>総合分析は妥当である。</li> </ul>		
<ul style="list-style-type: none"> <li>食育の取組について、学校の中で生徒に対してどう取り組んでいるのかや、教員の意識がどう変わったかについての分析を行う必要がある。</li> </ul>		<ul style="list-style-type: none"> <li>次回白書に向けて、検討します。</li> </ul>
目標設定の妥当性		
<ul style="list-style-type: none"> <li>目標設定は妥当である。</li> </ul>		
新たな政策課題		
<ul style="list-style-type: none"> <li><u>健全な食生活が、子どもの生活習慣や学習に大きな影響を与えることから、対応の一層の強化を図る必要がある。</u></li> <li>食育への関心が高まっていることから、食料の大切さを考える取組みを「もったいない運動」との連携で検討する必要がある。</li> </ul>		<ul style="list-style-type: none"> <li>事業を実施する中で、対応を検討します。</li> </ul>

総合計画審議会 戦略プロジェクト二次評価調書

戦略プロジェクト名	23 多文化共生の地域づくり	
	総合評価（検討が必要な事項）	対応内容
一次評価の検証		
	<ul style="list-style-type: none"> <li>総合分析は妥当である。</li> </ul>	
	<ul style="list-style-type: none"> <li>提言の内容に対する具体的な事例が白書の説明では明確でないことから、重要課題は何か、改善された項目は何かなど、実施の内容を明らかにする必要がある。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>白書に、具体的な事例についての説明を加えました。</li> </ul>
目標設定の妥当性		
	<ul style="list-style-type: none"> <li>目標設定は妥当である。</li> <li>提言の実施率という観点は、目標値としては明確でよい。</li> </ul>	
新たな政策課題		
	<ul style="list-style-type: none"> <li>外国籍県民施策は、外国籍県民が抱える課題を解決するだけでなく、外国籍県民を地域で積極的に生かす能動的な取り組みが県に求められている。このため、<u>外国籍県民会議だけではなく、県で何ができるのか、現場でニーズを把握することが必要である。</u></li> <li>外国籍県民の能力を活用するため、外国籍県民がビジネスを起こすことを積極的に支援する必要がある。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>次期計画に向けて、検討します。</li> </ul>

総合計画審議会 戦略プロジェクト二次評価調書

戦略プロジェクト名	24 男女共同参画社会の実現	
	総合評価（検討が必要な事項）	対応内容
一次評価の検証		
	<ul style="list-style-type: none"> <li>DV支援で、ステップハウスの確保など従前に比較して一歩進んだ施策に県が取り組んでいるのは評価できる。</li> </ul>	
	<ul style="list-style-type: none"> <li><u>総合分析は妥当である。</u></li> </ul>	
目標設定の妥当性		
	<ul style="list-style-type: none"> <li>目標 については、女性のキャリア形成が有利に働くことを視野に入れて、具体的な目標を検討する必要がある。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>次期計画に向けて、検討します。</li> </ul>
新たな政策課題		
	<ul style="list-style-type: none"> <li>ステップハウスの運営について、県とその運営機関との連携が実態に即しているのかが重要であることから、課題を明らかにするとともに、その課題解決に向けた対応方向を評価する必要がある。</li> <li>男性・女性によって働き方の違いがあるが、<u>男女が同じ条件で働き同じように評価を受けられるよう環境整備を進める必要がある。</u></li> <li>少子化対策及び男女共同参画の観点から、女性の働く環境づくりを進めるため、<u>スキルアップ支援や起業支援を強化する必要がある。</u></li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>事業を実施する中で、対応を検討します。</li> </ul>

総合計画審議会 戦略プロジェクト二次評価調書

戦略プロジェクト名	2 5 多様な主体が公共を担う協働型社会の実現	
総合評価（検討が必要な事項）		対応内容
一次評価の検証		
<ul style="list-style-type: none"> <li>総合分析は妥当である。</li> </ul>		
目標設定の妥当性		
<ul style="list-style-type: none"> <li>神奈川県では、県内のNPOと行政との連携は全国的に見て先駆的に行われてきていることから、今後は、県庁の各部署における取り組みやプロセスが、県民（社会的弱者）の立場に立って適切になされているかどうか、その管理状況を目標とするよう検討を行う必要がある。</li> </ul>		<ul style="list-style-type: none"> <li>次期計画に向けて、検討します。</li> </ul>
<ul style="list-style-type: none"> <li>コミュニティカレッジについては、受益者による評価が明確になるよう、講座数、受講者数だけでなく、受講した結果、地域活動に関わる人の数などについて目標設定を検討する必要がある。</li> </ul>		<ul style="list-style-type: none"> <li>白書に、平成18年度修了者のうち、活動を新たに開始した人の数及び評価についての説明を加えました。</li> </ul>
新たな政策課題		
<ul style="list-style-type: none"> <li><u>NPO法人や、協働の質が問われる時代に入っており、県との協働に関する評価手法を積極的に開発していく必要がある。</u></li> <li>連携事業のうち、県が財政支援しているものは、そのNPOが一定の成果をあげなければ、事業継続をしないという判断も必要である。その場合、役割分担などが明確であったか、県が拠出する資金が事業内容からみてその方法や額、期間が適切かどうかを判断する必要がある。また、当事者間の評価にとどまらず、受益者もしくは第三者の評価を積極的に行う必要がある。</li> </ul>		<ul style="list-style-type: none"> <li>現在は、自己評価と相互評価を実施していますが、第三者評価については、施策を展開する中で、今後の検討課題とします。</li> </ul>
<ul style="list-style-type: none"> <li>コミュニティカレッジについては、ボランティアの人材育成として、NPOを主体とした運営が行われる必要がある。</li> </ul>		<ul style="list-style-type: none"> <li>コミュニティカレッジの運営については、事業を実施する中で、対応を検討します。</li> </ul>

総合計画審議会 戦略プロジェクト二次評価調書

戦略プロジェクト名	26 文化芸術・スポーツを楽しむ環境づくり	
	総合評価（検討が必要な事項）	対応内容
一次評価の検証		
<ul style="list-style-type: none"> <li>総合分析は妥当である。</li> </ul>		
目標設定の妥当性		
<ul style="list-style-type: none"> <li>目標設定は妥当であるが、入部率のアップで何をめざしているか示す必要がある。</li> </ul>		<ul style="list-style-type: none"> <li>次期計画に向けて、検討します。</li> </ul>
<ul style="list-style-type: none"> <li>目標の利用者数については、文化施設の稼働率や利用内容について分析する必要がある。</li> </ul>		<ul style="list-style-type: none"> <li>次回白書に向けて、検討します。</li> </ul>
新たな政策課題		
<ul style="list-style-type: none"> <li>文化振興条例に限らず、政策条例や計画について、どのようなプロセスで実施されているのか、一覧で示す工夫を検討する必要がある。</li> <li>文化芸術に関心の低い県民にも興味を持ってもらえるような事業実施、広報に努める必要がある。</li> </ul>		<ul style="list-style-type: none"> <li>事業を実施する中で、対応を検討します。</li> </ul>

総合計画審議会 戦略プロジェクト二次評価調書

戦略プロジェクト名	27 新たな情報化社会かながわの推進	
	総合評価（検討が必要な事項）	対応内容
一次評価の検証		
	<ul style="list-style-type: none"> <li>総合分析は概ね妥当であるが、「神奈川県電子自治体共同運営サービス」の認知度が3割弱にとどまっていることから、サービスの周知を強化する手法について検討し、効果を分析する必要がある。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>事業を実施する中で対応を検討します。</li> </ul>
目標設定の妥当性		
	<ul style="list-style-type: none"> <li>情報セキュリティ対策への対応状況や情報弱者に対する施策の進捗率について目標設定を検討する必要がある。</li> <li>節約できる時間数という目標は推計値であるため、わかりにくい。電子化された事務の総申請数に占める電子申請された割合で測定することを検討する必要がある。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>次期計画に向けて、検討します。</li> </ul>
新たな政策課題		
	<ul style="list-style-type: none"> <li>電子申請は時代の趨勢であり、一層の展開を図る必要がある。</li> <li>県民の県政参画や社会参画の前提条件として県民との情報共有を図るため、差別のないバリアフリーの「情報環境の整備」を検討する必要がある。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>次期計画に向けて、検討します。</li> </ul>